

月歩学歩



「げっぼがっぼ」と読んで欲しいが、その意味は、“月日を歩き、学んで歩く”ということ？



特集

「学園祭」

【今回の学園祭準備期間は「学び合いのためのプログラム」であり、ねらいは「保育や福祉の現場で働くための態度や行動について体験（学園祭）を通して学び身につけていく」ということでした。学生のみなさん、いかがでしたか？役割を見つけ、役割を持って動きましたか？保育や福祉の現場で働くための態度や行動がどのようなものか感じることができましたか？これは、一人ひとりによく考えてもらいたいことです。】

（伊藤 恵里子） 2-8P

その他の内容

キャンパス・ライフ

- ◆ 東北スタディツアーII ～東北の現状からの学びあい～（小久保 圭一郎） 9-11P
- ◆ 8月13・14日チャリサー第1回千葉県南半島の旅
（1年生：大槻 洋平・高江洲 匡・新田 雅幸・松田 勝也・森 誉太） 12-13P
- ◆ 幼稚園教諭免許状更新講習を終えて（金 瑛珠） 14-15P
- ◆ 学園祭 ステージ PHOTO 15P

特集 学園祭



学園祭報告

伊藤 恵里子

2ヶ月ほど前の7月27日（土）、本学の学園祭が開催されました。

今年度は、学園祭準備期間を「学び合いのためのプログラム」とし、1・

2年生全員が各委員会に所属し、一人ひとりが役割を持って行動することを目指しました。学園祭の企画から終了までの過程には、この紙面上ではとても書ききれないほどの出来事やさまざまな学生の姿がありましたが、ここでできる限りご紹介したいと思います。

まず、本格的な準備は2年生が教育実習を終えた7月頭から始まりました。自分がどの委員会に所属するか選択するところからのスタートでした。各委員会に分かれてからは、今後の活動内容について話し合いを行っていましたが、そこではリーダーを中心に積極的に意見を出し合っている姿が印象

に残っています。その後は委員会ごとの活動となりましたが、活動が終わり時間が空いている学生が自らすすんで他の委員会を手伝うなどの様子も見られました。以下には、準備から片付けまでの各委員会の主な活動内容、そして私がその活動を見ていて感じたことを記してみます。

委員会名	主な活動内容	私（伊藤）が感じたこと
ステージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宣伝のためのプラカード製作 ・ ステージ、音響機材、和太鼓等の運び出し及びステージ設営 ・ タイムテーブル準備 ・ 各団体の宣伝 ・ ステージ発表の進行 ・ ステージの片付け 	<p>活動的な学生が多く、当日の宣伝、運営、片づけまでよく身体が動いていた。リーダー2名の明るさでみんなを引っ張っていたのが印象的である。</p>
販売	<ul style="list-style-type: none"> ・ 販売店として参加する施設について調べる ・ 施設訪問及び打合せ ・ 販売場所の設置 ・ 販売の手伝い ・ 参加施設へのお礼状送付 	<p>施設訪問のためのアポイント取り、施設訪問及び打合せ、当日の障害者の方との販売業務など、とてもいい学びになっていた。そのためか、「お礼状を出したい！」と学生から声が挙がったことは、とても喜ばしい。</p>
広報・受付	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポスター、パンフレット、チラシ作成 ・ ポスティングのため地域の自治会長と打合せ ・ ポスティング ・ 受付、案内 ・ 月歩学歩の原稿作成 	<p>初めに活動のスケジュール表を作ったことで、見通しを持って動いていたように思う。ポスターやチラシの作成、ポスティングは余裕を持って行っていた。</p>
装飾	<ul style="list-style-type: none"> ・ 装飾のコンセプトについての打合せ ・ 装飾物のデザイン及び製作 ・ 壁面に絵を描く ・ 装飾品の片付け 	<p>1年生のリーダーと2年生の委員長が連携を取りながら動いていた。装飾の準備をしている空間を訪ねると、楽しくあたたかい雰囲気になり満ち溢れていた。外の壁面に描いた絵がゲリラ豪雨により一瞬で消えてしまった時にはみんな悔しがり涙を流していた。私もとても残念だったが、このプロセスにこそ意味があったと感じてほしい。</p>
安全・衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミ箱製作 ・ 学内清掃のための準備及び清掃当日の仕切り ・ 保健センターとの打合せ ・ 救護室での応対 ・ ゴミ回収 	<p>リーダー2名の仕切り方がよく、学園祭前日に行われた「学内を学生全員で掃除する」という企画はスムーズに行われた。ゴミ回収という最も大変な仕事をリーダーを中心とする数少ない学生で行っていたことには頭が下がるばかりである。</p>

これで少しは伝わったでしょうか。このように、学園祭を成り立たせるためには数多くの仕事（あえて仕事と書きます）が必要でした。そして、それを1・2年生併せて約230名の学生が協力・調整しながら行うということは、とても大変なことだったでしょう。

今回の学園祭準備期間は「学び合いのためのプログラム」であったことは冒頭に述べましたが、今回のプログラムのねらいは「保育や福祉の現場で働くための態度や行動（チームの一員として役割を持って動くこと）について体験（学園祭）を通して学び身につけていく」ということでした。学生のみなさん、いかがでしたか？役割を見つけ、役割を持って動けましたか？保育や福祉の現場で働くための態度や行動がどのようなものか感じることができましたか？これは、一人ひとりによく考えてもらいたいことです。

最後に、前ページの表には各委員会の活動内容を記しましたが、それらすべてと有志団体の動きを把握し、調整を行っていたのが実行委員長です。初めは戸惑ったり思い悩んだりす

る姿も見られましたが、徐々に堂々とした立ち振る舞いに変わっていきました。また、1年生のまとめ長も苦労しながらよくみんなをまとめていました。ただ引っ張るだけでなく、みんなのわからないところで細やかに動いている姿もありました。実行委員長、各委員会の委員長、1年生のまとめ長とリーダー、本当にお疲れ様でした。そしてみなさん、本当に本当にお疲れ様でした。この経験を糧に、後期もがんばっていきましょう。

続いて、広報・受付委員の学生による学園祭報告レポートと、学園祭後の授業で行ったふりかえりの中から3名の学生の言葉を紹介します。私の報告と併せ、学園祭の雰囲気味わっていただけたらと思います。

学園祭

1年生：杉本 渉、松本 遥、松山 楓

今回の学園祭のテーマは「Ring of all みんなの輪」でした。このテーマは去年のテーマ（編注：imagination）を元に決めました。

今回は初めての試みとして、実行委員を筆頭に学生が主体となって準備を進めていきました。テーマを決め

る話し合いでは、1・2年生の間に壁は無く、自由に意見交換をすることができました。その後、詳しい係などが決められていくにつれ、1・2年生の連携が難しくなりました。6月は2年生が実習のため、1年生がメインで進めることにもなりました。その後、実習が終わって先輩方と話す機会が増え、コミュニケーションをとることができるようになっていきました。しかし、顔を知らない同士ということもあり、スムーズな話し合いになるまでたくさん問題がありました。それでもなんとか準備を進めていきました。

全体をふりかえって、1年生の係から連絡する時、もう少しまとめてから説明すればよかったという声もありました。出し物では、おぼけ屋敷の準備の人数が少なかったり、あまり時間も無く、満足のいくものができたとは言いがたいですが、小・中学生を中心に行列ができ、リピーターも多かったため、反応も良かったです。装飾では、自分の担当以外も手伝ったり、前日に遅くまで残って作業をしたかいもあって、当日までに準備を終えることができました。しかし雨が降ってしまい、外の装飾がだめになってしまったことが、とても残念でした。当日は、各自

が担当場所、役割をきちんと担うことができました。ステージ発表では、朝に雨が降り、ステージを撤去することになってしまいましたが、それぞれの団体はそのことにも動じず練習してきたことを出しきり、充実感のある発表をしていました。また、発表者だけでなく、観客も一緒に踊ったりしていて、見る楽しさだけでなく、一緒に楽しむことができるものもあったのがとてもよかったです。

全体的に来場者は少なく感じましたが、学生も来場者の方もみんな笑顔でした。もっとたくさんの方に来てもらうために、学園祭がいつ、何時からやるのかなどをもっと宣伝した方がいいでしょう。子どもだけでなく、大学生や社会人、高校生なども楽しめるものもあった方がいいという意見もありました。また、何がどこにあるかわかりにくいことがあったため、開催場所や掲示を工夫した方がよいという意見もありました。

今回、初めて「学び合いのためのプログラム」として行った学園祭ですが、たくさんの方の反省点や改善点が出てきました。これらのことを活かし、来年の学園祭は、もっとみんなで作ってあげる充実した学園祭にしたいです。

**1年生「学び合いのためのプログラム④」
ふりかえりのレポートから（抜粋）**

上野 実穂

明德短期大学での初めての学園祭、私は販売係になり、ときわぎ工舎という施設のお手伝いをしました。「ときわぎ工舎って何をやる所なのだろう？」というところから始まり、同じ施設担当の友達と施設について調べ、ときわぎ工舎は、知的障がいなどの障がい者の方たちの職場で、パンやクッキー、ジャムなどを作っている場所だとわかりました。

学園祭前に、当日の打ち合わせのため、実際に施設に行くことになり、電話を私が代表でかけることになりました。（中略）施設の方も、打ち合わせにうかがうととても親切にして下さり、見学もさせて頂きとても楽しかったです。

学園祭当日、午前中なかなかお客さんがこなかったのが急遽段ボールで看板をつくりました（編注：施設の方には、短大1階食堂にて販売をして頂きました）。短時間で作ったものですが、施設の方がとても喜んで下さり、帰り際に「この看板持って帰っていい？」と聞いてくれました。

学園祭はたくさんの笑顔を見ることができ、とても幸せな気持ちになりました。

また、ダウン症の方と一緒に販売をしたのですが、とても優しい方で、いろいろ気遣ってくれました。一緒に活動してみて、障がいのある方ともっと関わってみたい、お手伝いをしたい、という気持ちが大きくなりました。ときわぎ工舎の皆さんにとっても感謝します。

井上 和幸

今回、準備・当日・片付け、全てにおいて悲しく残念に思いました。前々日に掃除を終えてから、多数の人が「帰っていいの？」等話していて、帰っちゃうのかなと気になっていました。机を講堂に運んでいるのを見て、手伝うよとか声をかけてくれるのかなと思っていましたが、そのまま帰ってしまい、手伝ってくれると思っていた期待心を裏切られた気分でした。というより、講堂にいた人だけでなく、大体の人が帰っていたことが悲しかったです。

今までの学生生活で、たくさん楽しい思い出があります。この短い期間に楽しい思い出があるのは、仲間がいるからというのもあります。しかし、話したこともない人たちとも、一緒にスポーツ大会を楽しんだり、遊びを楽しんだから、楽しかったのだと思います。だからこそ、私は期待してしまし

た。今回の学園祭も、皆で頑張っ
て楽しいものをつくるのだろうと。その期待と裏腹に、大体の人が帰ってしまった失望感。「こんなものか」私は思いました。せめて16時40分まではいてくれ。それが本音でした。学園祭ではリーダーでもなんでもないけれど、残ってくれと思いました。

正直、保育者になる私たちにとって、学園祭のような行事は絶えずあると思うし、積極的に仕事ができないなら、将来就職した時どうなるんでしょうか。これは別に自分のことだから、人のことまで心配する必要はないけれど、期待をしたからこんな心配までしてしまう。

こんな悲しいことばっか書いていますが、販売でシュシュ等を買ったのも楽しかったし、感動もしました。なんでこんな喜びを知りたくないんだろう。知ろうとしないんだろう。知ろうとする力がないからなのか、でも、理由がなんであろうと、この喜びや達成感を味わってほしい。

私達は今回主催する側ではないのか？少し手伝って楽しんだら片付けもせずに帰っていいのかよ？就職してから片付けをしなかった時のことを考えたことはあるのか？こんなことを考えていないから帰ってしまうのだろうと

思います。

自分の仕事じゃないからやらない。言われてないからやらない。できない。これでいいのかな？と思います。

スポーツ大会では、係の仕事がはっきり決まっていなかったから行動できなかったと意見がありました。でも、学祭では係が決まっていたってやらなかったじゃないか。帰ったじゃないか。これは帰った人に伝えたい。帰ったから悪いとは言わない。保育者となる立場としてどうなんだ。資格を取りにきただけであっても同じだ。私はそう思うし、伝えたい。けれど一番は、自分たち一人一人で気づいて、無理なのかもしれないけど、みんなで意見を出し合って、来年は良いものをつくりたいと思います。

今村 彩香

学友会のまとまりがいいと思った。話しやすく、頼れる人がいて、たまにざわっとくるくらいみんな仕事できて、逆に自分は何もできていないのではないかと悩む時期もありました。

全てが成功なわけではないですが、一人一人が意思を持っていて、周りに流される子もいるけど、自分の意思を言える人も多くて、素直に思った事が

言えたり、伝わったり、それを実現させようとしたり、がんばれるって、すごい学校だなと思いました。

また、高校生にももっと来てほしいなと思いました。もっと地元の人に各自で呼びかけたりしたら、日頃の明德のいいところ？私達のいいところが、公開授業よりも見れると思いました。

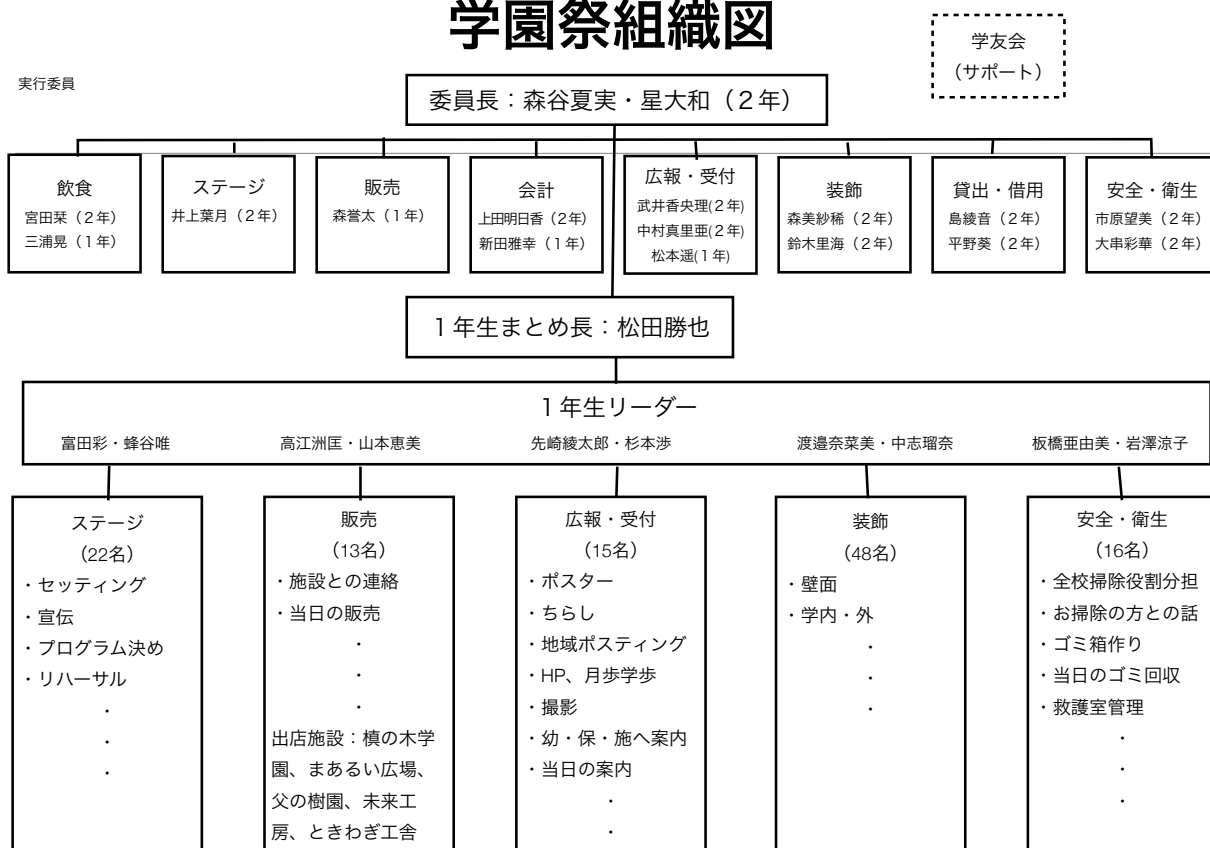
この活動は、保育に関係なくても《集団》としてどう成功させようかをみんな一人一人で考えることができ（参加した人は）、「みんなの輪」をテーマにしてよかったと思います。

けれど、本当に参加した全ての人に楽しんでもらえたかな？どうすればも

っと良かったか。この感想での反省点、みんなはどんなところを直した方がいいと思ったのだろうか？

「エコ」もテーマの一つだと思います。ゴミのことまであまり考えていなかったのも、エコについて考えられる気がします。それを来年考えて対策できたとしたら、そこで今回の学園祭の成功だと思います。次につなげるイベントは、次につなげられてきたからある学園祭で、もっともっとたくさんの方が来年は楽しめるように、やりがいを感じられますように。

学園祭組織図



キャンパス・ライフ

東北スタディツアーII ～東北の現状からの学びあい～ 小久保 圭一郎

2011年4月、私と本学教員加藤先生は、数名の学生と震災間もない東北を訪ねた。少しでも私たちにできることはないか。それを探しに出かけたのである。

現地に着くとやっと車道が確保されたばかりで、周りには崩れた建物跡が山のように残っていた。魚の生ぐさの残る大船渡漁港、行方不明者の捜索願いと遺体発見のお礼がたくさん貼られた釜石仮役所の伝言板、配給を求め多くの人で行列ができていた石巻駅前、そして泥跡残る教会...どこへ行っても「私たちは何のためにここにいるのか?」「私たちはここにいてはいけないのではないか?」という居心地の悪さ、いたたまれなさを感じていた。何より「私たちできることは何もない」という強烈な無力感。そうした感覚を持ちながらの旅だった。

そんな私たちに対しても、あたたかく迎えてくれたのは北村嘉勝先生であ

る。北村先生は、本学の施設実習（保育実習I/III）の実習先である「奥中山学園」の施設長を以前されていた方で、これまでずっとお世話になってきた。

その北村先生を頼りながら、毎年東北を訪れる旅も今年で3回目となる。最初の年は、本学教職員や附属幼稚園や土気保育園の先生方、そして2年次科目「現代社会論」担当の先生方と共に東北を訪れたが、昨年からは学生たちもこの旅に同行している。

この旅では次の3つを大事にしている。1つには、北村先生とずっとつながっていくこと。もう1つには、東北の現状を理解すること。そしてもう1つには、本学の学生のみならず、大東文化大学の学生たち、そして児童養護施設「ひかりの子学園」の子どもたち、この3団体で学びあうことである。

以上のことからお分かりのように、この旅はボランティア活動、すなわち被災地のために何か具体的なことをしていくものではない。東北の現状を理解し、その上で何を感じたか、考えたかを議論しあい、学びを深めていくものである。それゆえ私たちはこの旅を「スタディツアー」と呼んでいる。この学びあいは学生や子どもたち同士に限らない。私たち教職員も共に学びあおうとする。それがこの「東北スタディツアー」なのだ。

今年度は、東北の現状をより理解を深めるべく、一日宮古市にじっくり滞在し散策する時間を設けた。

散策にあたっては、幾つかのコースを設定し参加者それぞれの思いに沿ったコースを選択した上で、思い思い東北の地を散策した。ある者は、地元の路線バスに乗り、ある者は地元のボランティアの方がガイドして下さる遊覧船に乗り...そうした中で、わずかな時間ではあるが、地元の方と交流を持ち、話を聞くことができた。今回一日宮古市にじっくり滞在し散策しようと考えたのは、地元の方と少しでも交流し話が聞けたら、という思いもあったので、そのような機会が持てたのは幸

いであった。

そして、今回設定したコースにおける大きな企画の1つに「震災学習列車」がある。震災学習列車は、この度の大地震による津波で甚大な被害を受けた三陸鉄道が企画したもので、海岸沿いを走り三陸鉄道会社の方のガイドを受けながら、被災地の様子を実際にみる、というものである。当日のガイドは〇〇さん。津波被害の状況を、自戒を含みながら話してくれた。その話をするのは、自分を含めた地元の人たちを非難するようでとても辛い、という。そう言いながらも〇〇さんは、ユーモアを交えながら、私たちに誠意を込めて話してくれた。「私がした話を、今度はみなさんが周りの人に話してほしい」。この言葉が心に残っている。

「去年感じたリアルさや衝撃度が薄くなっている」。今回参加2回目の、ある学生が話したことである。彼女は自分のその感じ方に少なからず困惑しているようであった。実は私も、昨年同じようなことを感じた。甚大な被害を受けた被災地も、少しずつでも景観は変わっていく。建物が崩壊した土地も、徐々に片付けられ新しい建物が建

っていく。初めて訪れた時と比べ、衝撃度が薄くなるのは当然のことかもしれない。直接の被災地ではない東京や千葉（一部地域を除く）に住む私たちにとって、「震災を忘れていく」とはそういうことなのだろう。そうであるならば、「忘れていく」こと自体を恥じるより、「忘れていく自分」を自覚し、そうならないために何をするかを考えることの方が大事だと、私は思う。

忘れていかないために何をするか。私が思うのは「ずっとつながっていく」ことである。

個人的な話であるが、私が今回の旅で一番印象に残っているのは、3日目の昼食で気仙沼にある復興屋台村を訪れた時のことである。その屋台村は昨年も訪れた場所で、今回私と本学教員鶴田先生は、どこで昼食を取ろうか悩んだ末、昨年訪れたある喫茶店に入ることにした。

店に入ると、そこには昨年も私たちを迎えてくれた店員さんの姿があった。そして昨年頼んだカレーを、昨年と同じように私は普通盛り、鶴田先生は大盛りで注文した。

しばらくすると、店員さんから「ど

ちらからいらしたんですか？」の言葉が。私はすかさず答えた。「千葉からです。実は昨年も同じ時期に来て、このカレーをいただいたんですよ」。その言葉を受け、その店員さんが口にした言葉がとても心に残った。

その言葉は「おかえりなさい」。

他のどんな言葉より「絶対また来よう」と思わせてくれる言葉ではないだろうか。

来年再来年もまたこの店に寄ろう。今度は私から「ただいま」と言おう。

私が思う「ずっとつながっていく」ということは、つまりそういうことだ。

私たちが日常に戻り日々の仕事に追われるようになれば、このツアーに対して、そして被災地に対して、意識が薄くなっていくことは避けられないかもしれない。

でも、またあの店に行こう。「ただいま」「おかえりなさい」の言葉を交わそう。その思いがあれば、「つながって」いられる。そしてその関係が築けたなら、きっともう「忘れていく」ことはないだろう。

8月13日・14日チャリサー第1回千葉県南半島の旅

1年生：大槻 洋平・高江洲 匡・新田 雅幸・松田 勝也・森 誉太

メンバー5人と顧問の鶴田先生で、クロスバイクに乗り、南房総の旅に行ってきました！走行距離は約240kmでした！

自分の力だけで走り抜くというのは本当に大変でしたが、隊列を組んで走る楽しさを感じ、千葉の豊かな自然を味わう事ができ、そして、訪れた土地の人との偶然の出会いで心身が癒される、充実した旅となりました。

1日目は朝の8時に短大を出発し、外房線に沿って千葉を横断して、九十九里浜に向かいました。

10時半に九十九里浜に着き、少し早目の昼食を取りました。地元漁師

のお店「ばんや」で新鮮な魚介類を頂きました。ここで、都合により後から短大を出発した鶴田先生と合流し、一緒に走り出しました。

その後、南下して勝浦市に向かいました。急で長い坂道を駆け上がり、暗闇のトンネルをいくつも抜けました。その途中、広い海と砂浜を一望できる崖で休憩を取り、皆で美しい風景を見ながら、一時の休息を得ました。

17時頃、鴨川市の小湊に着き、料理屋「いいところ」で夕食を取りました。その後、すぐ近くにあった民宿「松田荘」に泊まり体を休めました。



2日目は朝の4時に出発し、この旅の1つの目標でもある、千葉最南端にある野島崎の灯台（南房総市）を目指しました。千葉市から80kmも離れた所にあります。

その後、館山の山道を越えて、木更津の自動車道を抜けていきました。皆、疲れ切った様子を見せながらも談笑したりして、気持ちを盛り上げていました。

18時前に、ようやく短大に到着し、ゴールを記念してコーラ片手に打ち上げをしました。

この旅で、千葉の自然を満喫し、その楽しさを感じました。海水浴客で賑わいを見せる浜辺や、岩がごろごろと転がっている海岸や、山道を走行中に覗き見る青い海など、次々

と移り行く景色は、走ることを飽きさせませんでした。また、強い日差しを浴びる中、山の木々の作り出す影に入ると、とても涼しく感じました。こうした目に入る風景は、走り疲れている私達の心に余裕をもたらし、安らぎを与えてくれました。

また勾配の急な山道の途中で休憩している最中に、冷たい井戸水をくださった民家の方や、何キロも続く長い砂浜沿いの道路の途中で休んでいる時に、太平洋を一望できる海の家2階テラスに案内してくださった方など、道中での人との巡り合いは、心に温かみを与えてくれました。

最後に全員が笑顔になれた事が、この旅の成功を物語っていたと思います。



幼稚園教諭免許状更新講習を終えて...

金 瑛珠

多くの学生の皆さんは卒業と同時に“幼稚園教諭二種免許状”を取得します。保育という専門分野で働くため、2年間、たくさんのことを学びますが、この免許状は、「取得してしまえば永久に有効！」というものではありません。“有効期間”というものが設けられているのです。ご存知でしたか？

保育士資格には有効期間が設けられていませんが、幼稚園教諭免許状は有効期間が明記されているため、現職教員や採用が予定されている免許保有者は、決められた期間内に更新講習を受け、免許を更新させる必要があるのです（有効期間は10年と定められています）。そのねらいについては、「教員免許制度は、公教育を担う教員の資質の保持・向上とその証明を目的とする制度であり、学校教育制度の根幹をなす重要な制度の一つ」であるとされていて、必修12時間、選択6時間×3科目（計18時間）を受講し、合格することで、免許状の有効期間が延長されるのです。

本学では、8月22日から27日（25日を除く）の期間に、選択科目6コース+必修科目を用意し、現職の保育者の方々、まもなく復帰予定の方々を対象に更新講習を実施しました。昨年度よりもコースや受講人数を拡大させ、多くの方が受講できるよう、また、多くの方が各々の興味関心によってコースを選択できるよう、準備を進めました。来年度に向けての課題はいくつかあったものの、終了後のアンケートでは、本学の講習を選ばれた理由はそれほど積極的な理由で選択されたわけではなかったが、終了後の全体的な満足度は非常に高い、という結果となりました。反省点および改善すべきところも明確になったので、来年度はもっと積極的な理由で選んで頂けるよう工夫していきたいと考えています。（ちなみに、卒業生の方も多く来てくださり、「迷わず母校での講習を選びましたよ！」とお話されながら、学校周辺を懐かしんでいらっしやる姿もありました。）

担当者としてとてもうれしかった

ことは、アンケートの中に「この短大で自分も学びたかった！」と書いてくださった方がいらしたことや、直々に「ここで学んでいる学生さんなら心強いので採用したいと思うのですが、どうすれば良いですか？」と声をかけてくださる方がいたことです。私たち教員も、実は、普段の学生の皆さんとつくっていく授業とは異なる緊張感の中、一人一人の担当教員がそれぞれに興味関心のある内容の講座を担当し、それぞれが頑

張ったのです。そのため、受講された方が明德の実践を評価してくださり、学校に、学生に、好意を寄せてくださったことは、素直にとてうれしく思えましたし、翌日への活力となりました。

以上、残暑厳しい8月末に学校で行われました免許状更新講習の簡単な報告でした。改めて、皆さんには免許状に関する説明の中で、詳しくお伝えすることになると思います。

学園祭 ステージ PHOTO



10月の予定

9/30～10/2

学び合いのためのプログラム④+⑥

10/2、23

研修生スクーリング

10/4、25

教育実習Ⅰ（1年生）

9/27、10/4、8、11

「明德あそぼうカー」

10/5、26

公開授業+オープンキャンパス

10/17

保育実践研究会

10/19

スターバックスお話ライブ

10/18、22

子育て支援たいむ 芋掘り

10/31

子育て支援たいむ 焼き芋



発行：千葉明德短期
大学

千葉市中央区南生実町1412

Tel:043-265-1613

Fax:043-265-1627

e-mail:

tandai@chibameitoku.ac.jp

URL:[http://](http://www.chibameitoku.ac.jp/)

[www.chibameitoku.ac.jp/
tandai.html](http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html)

編集

田中 葵

深谷 ベルタ

鶴田 真二



読者の皆様へ、『月歩学歩』
に対するご意見、ご感想をメ
ールにてお寄せ下さい。



編集後記

今月号は如何でしたか？「Ring of all みんなの輪」をテーマに掲げた学園祭を通じて、学生の皆さんは、日々の生活での「私」の周りにどのような輪があることに気づいたのでしょくか。

学園祭では、同じ係の学生との輪・係や学年を超えての学生同士の輪・学生と教職員との輪・施設の方々との輪・来場者との輪。スタディツアーでは参加者同士の輪・東北で出会った方々との輪。チャリサーの活動ではメンバー同士の輪・見知らぬ土地で出会った方々との輪。免許状更新講習では卒業生との輪・保育現場の方々との輪。小さな輪から大きな輪、結び目がまだしっかりしていない出来立ての輪からほどけないほど強固に結びついた輪、円い輪から凹凸のある輪まで、私たちの身の周りには形も大きさも異なる沢山の輪があるようです。一人ひとりがそれらの輪に気づき、それらの輪を大切にしたいと思った時、私たちは互いに繋がっていきけるのかもしれない。

さて、9月下旬より、本学から保育現場へ向けて土粘土を載せた「あそぼうカー」が走り始めました！幼稚園、保育園の皆さん、私たちと一緒に「あそぼうか！」と思われたら気軽にご連絡ください。「あそぼうカー」で皆さんのもとへ遊びに行きます！「あそぼうカー」もまた、皆さんとの輪を築くきっかけになればと願っています。「あそぼうカー」の取組については、次号でお知らせする予定です。（鶴田）